

第3回文化財保存活用大綱策定専門家会議概要

- 1 日 時 令和元年 10 月 28 日(月) 午後 6 時 15 分～午後 7 時 30 分
- 2 場 所 メルパルク京都 4 階 研修室 3・4
- 3 参加者 委員・・・金田委員、朝賀委員、尼崎委員、今井委員、亀澤委員、高橋委員、藤井委員、宗田委員
オブザーバー・・・光石氏、村上氏
教育委員会・・・山口指導部長、森下文化財保護課長ほか
関係課・機関

○主な意見

- 4 章「文化財の保存・活用のための基本的な方針」について、我が地域では小・中学生より高校生の参加が問題だ。小中までは地域の文化財、地元の行事に接することができるが、高校では校区も広いので対象エリアが広くなり、特定の地元の行事に参加できないという状況が起こっている。高校生でも参加できるよう、単位が認定されるなど工夫が欲しい。

(事務局)

ありがとうございます。高校ではエリアが広がることも、考慮していきたい。一方で、これまでの地元のエリアで文化財を維持管理していくのは難しい現状もある。そのため、今まで以上に広いエリアのなかでそれを繋げていく取組も必要と考えている。

- 文化財の観光に活用する面について、23 ページ「数地域の文化財の価値の見直し、複数の文化財をセットにして、地域の活性化につなげる」との記載は、観光の視点から見ると、「文化財を地域の様々な地域資源と組み合わせることなどにより」のほうが、現実に近いと思う。それと 24 ページ「活用が優先される文化財の劣化が懸念される」とあるが、二条城では聞くが、府内の例があれば、教えていただきたい。また、文化財の保存・活用・継承については、建物、古墳などハードものについては、触れられているが、民俗文化財における担い手不足の支援活用などはどうか。

(事務局)

劣化の懸念については二条城がよく言われているが、どれぐらいの人が訪れるとどれぐらい劣化するのか性格に数字で表すことは難しい。他の建造物も具体的に示すことは難しいが、観光を中心に人がたくさん来られるところは、床のすり減り等、劣化が進むことは否めない。

また、無形民俗文化財も大綱で対象としており、力を入れるべきと考えている。記述が少ないところは十分書き込ませていただきたい。

- 海外旅行客は 2040 年くらいに向けて倍増していく。文化財をオーバーツーリズムから守ることが必要だ。これからは外国人向けに文化的な評価を行うことが求められる。また、将来の文化財、博物館のネットワークを見据え、二つの郷土資料館をどうしていくのかという観点も重要だ。川崎の水害が深刻になっている。京都でもかつて山城大水害、鴨川水害などがあった。水害について防災のなかで記してはどうか。

(事務局)

両資料館の位置づけに関しては、おっしゃった内容を踏まえて、検討を進めさせていただきたい。

- ヒアリングの結果について、7自治体が現在地域計画を策定する予定はないとのこと。これは専門職員がいないというところと重なっているように見える。文化財、文化遺産を保存継承するためにも全市町村で地域計画を作っていたいただきたいが、このヒアリングの結果を見るともっと強く、こういうところを取り残さない強い姿勢を出した方が良い。

(事務局)

地域計画を策定する上では、体制が大きな課題だと分かった。「大綱を読む方々が自らの問題だと捉えていただくこと」が重要。中間案に係る市町村からの意見のなかに、「夢と希望が持てるものが良い」とあった。大綱を読んでいただくなかで、文化財が今後の地域の未来を考えて行く上でも、大きなウェイトを占めていると認識してもらえる内容にする必要がある。最終案に向けて、市町村への支援の方法を併せて検討したい。

- 「文化財からどういう夢と希望を持てるか」について、例えば与謝野町のちりめん街道では、若い人が定着する、インバウンドが来るなど良いことも起こっている。文化財指定をしたことによって町が元気になった、観光客が増えたなど、夢と希望が分かるような記載があれば。

- 前回の議論をふまえ見やすくなった。基本的には大綱については地域計画のような認定ということはない。十分議論を尽くしよりよい大綱を作っていたいただきたい。

- 中間案 3 ページの年表で、大正 8 年の史跡名勝天然紀年物保存法とあるが「念」の字が間違っている。

- 丹後や山城は地域の長年の取組の積み重ねがある全国的にも有数のところだ。熱心に書いていただける方もいらっしゃると思う。

- ヒアリング結果について、審議会の開催状況が 6 件「無」と書かれている。文化財保護条例が無いのか。

(事務局)

市町村は、全て条例はある。アンケートの結果、諸事情のなかで、審議会の方を開いておられないところがあることが、わかった。本日いただいた意見の中で、すぐ反映できないものは最終案に向けて、調整を図っていきたい。